

2014.3.15

生誕100年
大指揮者 **カルロ・マリア・ジュリーニの芸術**

プログラム

今年はイタリアの巨匠指揮者、カルロ・マリア・ジュリーニの生誕100年に当たります。そこで今回は、ジュリーニが残した録音の中から選りすぐりの名演をお聴きいただくことにしました。

カルロ・マリア・ジュリーニは1914年5月9日、イタリアのパレッタ生まれ。1998年指揮活動から引退、2005年6月14日に91歳で亡くなった、20世紀を代表する巨匠のひとりです。1950年ミラノRAI交響楽団首席指揮者を経て1953年名門ミラノ・スカラ座の音楽監督に就任。56年辞任後はイギリスのフィルハーモニア管と数多くの録音を残し、1969年シカゴ交響楽団の首席客演指揮者。1973年ウィーン交響楽団の首席指揮者。そして1978年にはロスアンジェルス・フィルハーモニックの音楽監督に就任。名コンビぶりを印象付けましたが、84年惜しくも辞任。以降はヨーロッパの名門オーケストラを次々と指揮して尊敬を集めました。ジュリーニのレパートリーは決して広いとは言えませんが、それがイタリア音楽でもロシア音楽でも、選ばれた曲に寄せる並々ならぬ情熱が聴く者を捉えます。特にイタリア人指揮者でありながら、ドイツ・オーストリア音楽では、どの指揮者よりも、その神髄を伝えてくれる指揮者でもありました。ジュリーニの最も輝かしい業績のひとつはロスアンジェルス・フィルの黄金時代を築き上げたことですが、1982年の来日公演で聴いたブルックナーは、これがアメリカのオーケストラか、と思う程ドイツ的な響きで我々を驚嘆させたのです。精緻で無駄のない響き、正攻法で攻めて行きながら、ずっしりとしたスケール感を持ち合わせていますが、それが力づくではなく、自然な流れの中から生まれて来るのがジュリーニの素晴らしさです。今日はそんなジュリーニの特徴が良く分かる名演の数々をお聴きいただきましょう。

ロベルト・シューマン (1810~1856):

交響曲第3番変ホ長調 op.97 “ライン” ~第1楽章、第5楽章

カルロ・マリア・ジュリーニ指揮ロスアンジェルス・フィルハーモニー交響楽団
(1980年録音 グラモフォンレコード)

ピョートル・チャイコフスキー (1840~1897):

交響曲第2番ハ短調 op.17 “小ロシア(ウクライナ)” ~第1楽章から、第4楽章

カルロ・マリア・ジュリーニ指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
(1991.9.14 シャウシュピールハウスでのLive)

イーゴリ・ストラヴィンスキー (1882~1971):

舞踊組曲 “火の鳥” ~

魔王カスチエイの凶悪な踊り ~ 子守歌 ~ 終曲

カルロ・マリア・ジュリーニ指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
(1991.9.14 シャウシュピールハウスでのLive)

*** 休憩 ***

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン (1770~1827):

ミサ・ソレムニス(荘厳ミサ曲)ニ長調 op.123 ~ 抜粋

キリエ ~ クロリア ~ サンクトゥス ~ アニュス・テイより
カルロ・マリア・ジュリーニ指揮スウェーデン放送交響楽団
クリステアーネ・エルツ(ソプラノ) / モニカ・グローブ(メゾ・ソプラノ)
クリステイアン・エルスナー(テノール) / ルネ・パーペ(バリトン)
スウェーデン放送合唱団 / エリク・エリクソン室内合唱団
(1998.4.24 ストックホルム、ベルワルドホールでのLive ~引退記念コンサート~)



アントン・ブルックナー (1824~1896):

交響曲第7番ホ長調 ~ 第2楽章から、第4楽章

カルロ・マリア・ジュリーニ指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
(1985.3.5 ベルリン、フィルハーモニーホールでのLive)